第三回 下掛宝生流 能の会

羅生門

能　羅生門　友枝昭世

狂言　二人袴　山本則俊

舞囃子　三輪　粟谷明生　殿田謙吉

令和元年
12月21日（土）
午後3時開演

国立能楽堂

第三回 下掛宝生流（しもがかりほうしょうりゅう） 能の会

於 国立能楽堂

令和元年十二月二十一日（土）

開演午後三時

（開場午後二時十五分）

舞囃子 **三輪**

シテ 友枝 昭世

大鼓 國川 純　太鼓 小寺真佐人

小鼓 観世新九郎　笛 松田 弘之

地謡 御厨 誠吾　高井 松男

野口 琢弘　宝生 欣哉

大日方 寛　則久 英志

狂言 **二人袴**

親 山本 則俊

太郎冠者 若松 隆

聟 山本 則秀

勇 山本 則重

— 休憩三十分 —

能 **羅生門**

シテ 粟谷 明生

ワキ 殿田 謙吉

頼光 宝生 尚哉

保昌 野口 能弘

立衆 則久 英志

〃 舘田 善博

〃 大日方 寛

〃 平木 豊男

アイ 山本 則重

大鼓 國川 純　太鼓 小寺真佐人

小鼓 観世新九郎　笛 松田 弘之

後見 友枝 昭世

佐々木多門

中村 邦生

地謡 粟谷 充雄　狩野 了一

内田 成信　出雲 康雅

金子敬一郎　粟谷 能夫

大島 輝久　長島 茂

終了予定 午後五時半頃

羅生門あらすじ

勅命に従って大江山の鬼神を平らげた源頼光一党、此頃は頼光の館で日夜酒宴を繰り広げていた。春雨の降りやまぬ或る日の暮れ、一同はいつものごとく和やかに酒を酌み交し、宴もたけなわとなった頃、頼光が平井保昌に、近頃都に何か珍しい事はないかと問うと、保昌は羅生門に鬼が棲むという噂を申し述べる。それを聞いた頼光四天王の中の一人・渡辺綱（ワキ）は保昌を咎め立て、両者の間に激しい口論が勃発。王城の南門（正門）に鬼が棲むなど打ち捨ておけぬと憤る綱は、羅生門壇上に立て置く為の「印の札」を頼光より賜り、猛然と座を立ち館を後にする。

口論の行きがかり上、夜中羅生門に赴く事となった綱は、馬に乗ってただ一騎、九条通りの表に打って出る。折からの激しい風雨に慄き歩みを止めた馬を乗り捨て、石壇に上がり「印の札」を壇上に立て置き帰ろうとするが、そこへ後ろから鬼（シテ）が兜を掴んで襲い掛かる。綱は騒ぐ事なく太刀を抜いて立ち向かうが、果して勝負の行方は…。

見どころ

能『羅生門』は、ワキ方で非常に大事に扱われており、数ある演目の中でも上演機会が稀な秘曲です。当流では従来、宗家もしくは宗家に準ずる者がワキを勤めていましたが、今後のワキ方の技芸伝承を考慮し、この度は門下を代表して殿田謙吉が勤めます。鬼役のシテも存在感を要する重要な役で、渡辺綱との躍動的な対決場面は見た目にも分かりやすく、能を見慣れない方にも充分楽しめる作品となっています。

また、舞囃子『三輪』では、舞手に現代能楽界最高峰の演者・友枝昭世師を迎え、通常はシテ方が担当する地謡を、ワキ方である当流・下掛宝生流が勤める初の試みに挑みます。

狂言『二人袴』は、江戸式楽の伝統を継承する山本東次郎家に伝わる様々な曲の中でも、特に面白いと言われる演目で、これらも併せてご期待ください。

元号も改まった新時代、能楽ワキ方の技が伝承されていく場にお立合いいただきたく、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

チケットのお申し込み

9月24日（火）午前10時より予約受付開始

［入場料（全席指定）］

正面 S席　10,000円　　脇正面 B席　7,000円

正面 A席　9,000円　　中正面 C席　6,000円

学生（30歳以下）**は、各席・上記金額より4,000円割引**

※学生券は、当日受付にて学生証のご提示の上、お受け取りください。

［お申し込み方法］

下掛宝生流ホームページ

http://shimohou.com/ticket/

下掛宝生流事務局　担当：大日方（オビナタ）

Tel.070-3883-3920　Fax.03-6479-2626

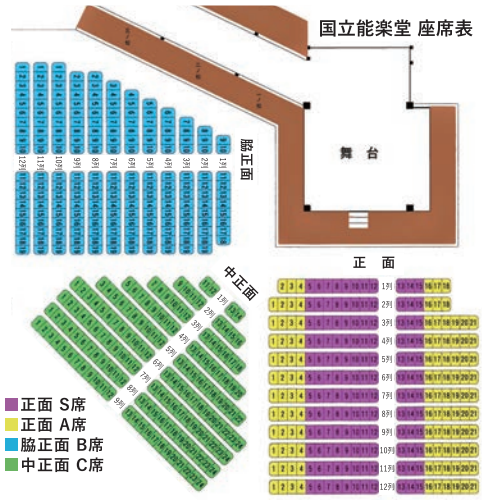
shimohou.ticket@gmail.com

①お名前　②ご住所　③お電話　④FAX番号

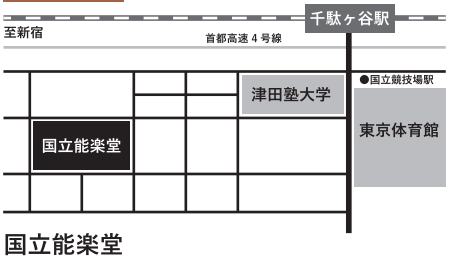
⑤ご希望の席種と枚数をご明記の上、ご送信ください。

※病気その他やむを得ない事情で出演者が変更になることがあります。

※公演中止の場合を除き、ご購入後のチケットの払い戻し、変更、再発行はいたしません。



アクセス



国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1

Tel.03-3423-1331（代表）

●JR 総武線「千駄ヶ谷駅」より徒歩 5 分

●地下鉄大江戸線「国立競技場駅」A4 出口より徒歩 5 分

下掛宝生流　能楽（謡曲）講座のご案内

日時：12月4日（水）午後4時～／7時～（2回・同内容）

会場：国立能楽堂 大講義室

※詳細は、9月中旬（予定）にご案内いたします。

表紙写真提供：金の星・渡辺写真場

以前のチラシ記載の電話番号に誤りがございました。このチラシに表記しておりますのが正しい番号です。お詫びして訂正いたします。